ボーリング柱状図

調　査　名　元岡中学校屋外階段改築工事地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	Ｎｏ．１	調査位置	福岡市西区大字田尻１０８番地					北緯	33° 35’ 08″
発注機関	福岡市財政局アセットマネジメント推進部施設建設課			調査期間	平成 28年 1月 20日 ～ 28年 1月 23日			東経	130° 15’ 11″
調査業者名	カイ・ボー 電話（092-804-1551）	主任技師	海田　龍正	現場代理人	海田　宏光	コア鑑定者	海田　龍正	ボーリング責任者	海田　宏光
孔口標高	KBM -0.02m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	
総掘進長	29.12m								
試錐機	YBM-05					ハンマー落下用具	半自動落下式		
エンジン	NFAD-8					ポンプ	GP-5		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
1	-2.02	2.00	2.00		埋土	暗褐～褐灰	中程度		地表面、砂利で整地している 礫混じり土砂状(礫質土)の土相 ガラ・礫・ｺﾝｸﾘｰﾄ片等を混入 所々にφ10～15cm大の礫を混入 下部、含水比は高い	現世	1/23 0.70
2											
3	-4.02	2.00	4.00		シルト混じり砂	暗灰	非常に緩い		微細砂～中砂主体で粒子不均一 全体にシルト分を混入する 貝殻片を少量混入する 孔壁は崩れやすい 含水比は高い	現世（埋立土）	
4	-5.52	1.50	5.50		シルト	暗灰		非常に軟らかい	全体的に極めて軟弱である 微細砂分及び貝殻片を少量混入 孔壁のせり出しが見られる 含水比は非常に高い		
5	-6.52	1.00	6.50		砂	暗淡灰	緩い		細砂～中砂主体 若干、シルト分を混入する	沖積層	
6											
7	-10.02	3.50	10.00		砂礫	暗淡褐～暗褐	中程度		基質は細砂～粗砂主体 礫種は主に花崗岩礫・片岩礫等 でφ1～5cm大の亜角レキ状が多 く見られる GL-9m付近、粘土分を薄く挟む 掘削時、孔壁の崩壊が激しい 循環泥水では、少量の逸水有り 含水比は高い		
8											
9											
10	-11.82	1.80	11.80		粘土質砂	黄褐～黄灰	緩い～非常に緩い		細砂～中砂主体 全体に粘土分を混入する 所々、小礫を混入する 孔壁は崩れやすい	洪積層	1/20
11											
12	-15.32	3.50	15.30		粘土混じり砂礫	黄褐	中程度		基質は粘土～粗砂主体となる 全体にφ1～3cm大の礫を混入 小礫率高く、礫質土状に相当 部分的にクサレ礫が見られる 所々、粘土分を薄く挟む 掘削時、孔壁の崩壊が著しい 循環泥水では少量の逸水有り 含水比中位		
13											
14											
15											
16	-17.52	2.20	17.50		砂質粘土	青灰～暗灰		中位	半固結粘土状の土相 全体に微細砂分を混入する 比較的に粘性は弱い 孔壁は自立している 含水比は低い～中位		
17											
18	-20.02	2.50	20.00		粘土質砂礫	黄褐	密な		基質は粘土～粗砂主体 礫種は片岩礫・花崗岩礫を主とし、φ1～5cm大の円レキ状が多く、硬質である 所々、粘土分を混入する 掘削時、孔壁は崩れやすい		
19											
20	-26.02	6.00	26.00		強風化花崗岩	黄褐灰	中程度～密な		早良型花崗岩類の軟岩質の岩相 強い風化を受け褐色土壌化する コア形状はマサ土（砂質土）状で細粒～中粒状となる 概ね、岩組織は明瞭である 掘削時、孔壁は崩れない 循環泥水では、殆ど逸水はない 含水比は低い GL-21m以深、密実となる傾向を示している	中世代白亜紀	1/21
21											
22											
23											
24											
25											
26	-29.14	3.12	29.12		風化花崗岩	淡褐灰	非常に密な		弱い風化を受け褐色土壌化する コア形状はマサ土（砂質土）～岩塊状で細粒～粗粒状となる 所々に岩片が残る 含水比は低い 全体的に極めて締まる傾向を示し、安定した岩盤である		1/22
27											
28											
29											
30											
31											
32											

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	5	5	11／30	11
1.45	1	1	2	4／30	4
2.15					
2.45	1	1	1／15	3／35	3
3.15					
3.50					
4.00	ハンマー自沈			0／50	0
4.50			1／35	1／35	1
5.15					
5.50	2	1	2	5／30	5
6.15					
6.45	5	3	5	13／30	13
7.15					
7.45	8	10	9	27／30	27
8.15					
8.45	3	8	3	14／30	14
9.15					
9.45	2	2	3	7／30	7
10.15					
10.45		1／20	1	2／30	2
11.15					
11.45	5	4	6	15／30	15
12.15					
12.45	6	5	4	15／30	15
13.15					
13.45	5	7	7	19／30	19
14.15					
14.45	3	4	4	11／30	11
15.15					
15.45	2	3	3	8／30	8
16.15					
16.45	1	1	2	4／30	4
17.15					
17.45	11	13	18	42／30	42
18.15					
18.45	9	15	14	38／30	38
19.15					
19.45	6	7	11	24／30	24
20.15					
20.45	8	12	14	34／30	34
21.15					
21.45	10	12	16	38／30	38
22.15					
22.45	9	12	14	35／30	35
23.15					
23.45	8	12	12	32／30	32
24.15					
24.45	10	15	24	49／30	49
25.15					
25.45	21	29		50／20	75
26.15					
26.35	22	28／9		50／19	79
27.15					
27.34	32	18／3		50／13	115
28.15					
28.28	31	19／2		50／12	125
29.00					
29.12					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
2.50	孔内水平載荷試験 Em＝1.91 MN/m2
4.50	孔内水平載荷試験 Em＝1.72 MN/m2

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）
1.30	D-1	㊀	粒度（ﾌﾙｲ）
3.30	D-2	㊀	粒度（ﾌﾙｲ）
4.30	D-3	㊀	粒度（ﾌﾙｲ）密度（沈降）
6.30	D-4	㊀	粒度（ﾌﾙｲ）
7.30	D-5	㊀	粒度（ﾌﾙｲ）
11.30	D-6	㊀	粒度（ﾌﾙｲ）
13.30	D-7	㊀	粒度（ﾌﾙｲ）
19.30	D-8	㊀	粒度（ﾌﾙｲ）

掘進月日

- 1/20
- 1/21
- 1/22

・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があり、現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。